



# ゆらがわ

舞鶴市立由良川小学校

学校だより 2月号

〒624-0955 舞鶴市字丸田74番地

TEL : 0773-82-0013

令和4年1月31日発行

## Beyond コロナ ~ この災禍をくぐり抜けて ~

< 諏訪中央病院 副院長 高木宏明医師の考察より >

3学期がスタートしたと思ったらすぐに舞鶴市内での新型コロナウイルスの感染者が出て、1月中に予定していた取組が中止または延期となりました。さらに「まん延防止対策等重点措置」が34都道府県に拡大されて2月を迎えます。特に今回は府内では若年層での感染が目立っています。

タイトルに書いたBeyondコロナについてネットで調べると次のような内容のことが書かれています。

「自粛」「制限」「回避」「封鎖」…新型コロナウイルス感染症の流行で世界の姿が変わりました。

最終的に私たちはどんな変化を被るのでしょうか。その結果何を失ってしまうのでしょうか。そして私たちがここから得るものはあるのでしょうか。このことを考えてみました。

その中で、10年前にも口蓋(マスク)が高騰したことも紹介されています。そして今回の新型コロナ感染症ですが、10年前と今、人々に起きた混乱について「こころ」の面に少し光をあてて考えられています。

### 死への恐怖

感染症の流行の際、同じように大混乱に陥るのは、10年前も今も、誰もが死を恐れるからでしょう。

だから命を脅かすものと認識するやいなや、一気に緊張が高まりました。…こうして家に引きこもり、誰かがウイルスを持ち込まないか警戒し、その不安と恐怖に冒された心が排斥、嫌悪、差別と誹謗と風評を生みます。ウイルスや感染症について「知らないこと」「分からないこと」がそれらの感情に拍車をかけます。

### 「こころの感染症」

このように感染症は体だけでなく、いわば心にも感染して影響を与えます。不安、恐れからなる心理的感染症、他人に対する嫌悪、差別、偏見などからなる社会的感染症です。これらの感染症はこうした災禍のたびに繰り返し蔓延するもののようです。

### 10年前と現代の背景の違い

しかしこの「こころの感染症」を引き起こす背景には時代の違いがあるように思われます。

- ・ 情報の拡散…10年前と今とでは、情報の拡散の速度とその広さが違います。今の方が圧倒的に速く広いために、心の感染も速く広く浸透していくように見えます。場合によっては誤った情報もその中には含まれます。これらが不安や恐怖の度合いに拍車をかけることも容易に想像できます。
- ・ 日常の中の「死」…現代において「死」は10年前に比べると何かベールに包まれた目に見えない、恐ろしいものに思えても不思議ではありません。「私たちは死に方を一度も学ばなかった」(アシル・ムベンベ)それが心の感染症を「重く」している可能性があるのです。

また、次の3つの作業をしてきたと書かれています。

- 1) 「価値あるもの」を捉えなおす。 ○暮らすことを支えるもの・人 ○暮らしの中でつながること  
○暮らすことを豊かにするもの ○暮らすことの中に見出す価値
- 2) 失ってはいけないものを同定する。 ○コミュニケーション…マスクは表情を奪う  
○共感と思いやり ○自由…特に移動の自由 ○民主主義と科学における哲学
- 3) 獲得しておくべきものを見つけ出す。 ○地球に住まう人類として ○社会人として  
○地域人として ○家庭人として 個人として ○そして人間として…学び、働き、成長する存在として

最後に、コロナ禍で私たちが身に付けておきたいものについてまとめています。

結論から言えば、それは「賢明さとさらなるやさしさ」であると思いますし、それは知識と意識と良識として定着させたいものと考えます。

ア 知識…ウイルス感染症シーズンに取るべきメリハリある行動に関する知識を深める賢明さが必要。

イ 意識…地域の感染流行に関する情報にアンテナを張る意識、そしてそれに併せて感染予防の知識をメリハリよく生活に取り込む意識、ワクチン接種を積極的に受ける意識、自分の日々の行動を振り返り、感染を受けた可能性を測り、それが高いと分かったときには自身の健康状態に目を向け、発症に気を付け、無症状時期も含めて人に感染させないための行動を取る意識。

ウ 良識…知識と意識に基づいた良識の集積が安心、安全な地域を創ります。

こんなふうに見てみると、過去に起こったことを振り返り考察することの重要性を改めて感じます。今の時代に生きる人としてやるべきことをやっていきたいです。そして、子どもたちには、この経験から生きていく上で大切にすることや人と人のつながりを学び、たくましく生きてほしいと切望します。

校長 中江 浩二 教職員一同

